



友愛便い

住之江健康づくり推進協議会「松の会」 6月の学習会が当院で開催されました。

第一部は、当院副院長の寺本佳史医師（脳神経外科）が脳梗塞をテーマにした『講演』を行い、第二部は『ふれあい健康フェスタ』と題し、リハビリテーション科による健康体操と、骨密度測定と動脈硬化検査を無料体験いただき、楽しく笑いの絶えない時間を共有させていただきました。

これからも地域の方々の疾病予防、健康増進の知識普及に努めてまいります。



◆ 関西医事新報に当院の医師が掲載されました ◆

2017年6月20日(毎月1回20日発行)

関西医事新報

大阪 12

地域の患者は地域で診る

医療法人讃和会 友愛会病院 寺本 佳史 副院長

◎脳神経外科と整形外科が連携
当院の強みの一つは脳神経外科医が常駐していることです。厚生を問わず、検査・開頭手術・脳血管内手術などに対応。超急性期の治療を得意としています。

大阪府西部地域の救急医療を支える救急委員病院。昨年就任した寺本佳史副院長は、脳神経外科医として脳血管内治療に取り組みながら、術後リハビリテーションにも力を注ぐ。同院を地域の中核病院にしたいと奔走する寺本副院長の思いとは、



血管内治療が行われている手術室

◎救急車の取り組み
昨年度の救急車による搬入件数は年間約36

200件、こちらに比べて増加傾向です。脳外科疾患、特に脳卒中や外傷の場合は、早朝搬送し手術開始が欠かせません。そこで当院では2014年から連続強化を目的に、地域の救急隊との連携強化を年々3〜4回のペースで開くようになりまし



【てらもと よしふみ】近畿大学付属和歌山高校卒業 1992 近畿大学医学部卒業 河内脳神経外科入局 2007 同附属病院脳神経外科講師 2012 りんくう総合医療センター脳血管外科部長兼リハビリテーションセンター長 2013 友愛会病院 2016 副院長

《病院理念》

私たちは医療を通じて健康で心豊かな社会の実現を目指します

《基本方針》

1. 救急医療の充実を図り、医療の質の向上に努めます。
2. 在宅部門の充実を図り、他の施設と連携し地域医療サービスを推進します。
3. 疾病予防、健康増進の知識を普及します。
4. 開かれた病院として、患者さんの権利を尊重します。
5. 環境整備と安全対策に留意し、患者さんに満足と安心を提供します。

熱中症予防～5つのポイント！

①高齢者は上手にエアコンを

高齢者や持病のある方は、暑さで徐々に体力が低下し、室内でも熱中症になることがあります。節電中でも上手にエアコンを使っていきましょう。

周りの方も、高齢者のいる部屋の温度に気を付けてください。



②暑くなる日は要注意

熱中症は、暑い環境に長時間さらされることにより発症します。特に、梅雨明けで急に暑くなる日は体が暑さに慣れていないため要注意です。また、夏の猛暑日も注意が必要です。湿度が高いと体からの汗の蒸発が妨げられ、体温が上昇しやすくなります。猛暑の時は、早めにエアコンの効いた室内など涼しいところに避難しましょう。

③水分はこまめに補給

のどが渇く前に水分補給しましょう。

汗には塩分が含まれています。大量の汗をかいたら、水分とともに塩分もとりましょう。ビールなどのアルコールを含む飲料は、かえって体内の水分を出してしまうため、水分補給にはならず、逆に危険です。

また、高齢者は暑さやのどの渇きを感じにくい傾向にありますので、こまめに水分を補給しましょう。寝る前も忘れずに！



④「おかしい!?!」と思ったら病院へ

熱中症は、めまい、頭痛、吐き気、倦怠感などの症状から、ひどいときには意識を失い、命が危険になることもあります。「おかしい」とと思ったら、涼しいところに避難し、医療機関に相談しましょう。

⑤周りの人にも気配りを

自分のことだけでなく、ご近所で声を掛け合うなど、周りの人の体調にも気を配りましょう。

スポーツや屋外で人が集まるイベントなどを実施するときは、気温や参加者の体調を考慮して熱中症を防ぎましょう。



編集後記

体調を崩しやすい夏の健康管理

夏の夜は寝苦しく、睡眠不足になりがちです。睡眠は消耗した体力の回復に欠かせません。でも、寝苦しいからといって一晩中冷房を効かせて眠るのは体調不良のもとです。寝具をサラっとした肌触りのものに変えるなど工夫してみましょう。また、暑いからといってシャワーだけですませず、湯船につき新陳代謝を高めましょう。

友愛会病院 広報委員会

○友愛会病院のホームページも是非ご覧ください。 <http://www.sanwakai.jp/>

